平成30年度 青少年育成作文 優秀賞③

青少年育成推進協議会では、毎年、小・中学生を対象に作文と標語を募集しています。今年度、優秀賞に輝いた作文を紹介します。

「体験活動をして」

南関中1年・江口（えぐち） 乃ノ佳（ののか）

私は、ボランティア活動やそういうことがめんどくさい、大変そう、という理由でボランティア活動などあまりやってきませんでした。しかも、ほかの人がやるからいいやとも思っていました。だけど四つの理由でボランティア活動がとてもすばらしいということが分かりました。

一つ目は、終わったあとの達成感です。

私は、ボランティア活動はいやいやながらにやっていました。その中のひとつが資源回収です。私は、この仕事は毎年いやでした。ずっと重い荷物を運ばなければいけないし、長い間行わなければいけないという理由でこの仕事はいやでした。でもみんな一生懸命がんばっている姿を見て私もがんばろうと思い必死で行いました。そして、終わって周りを見わたすと、資源ごみはほとんどなくなっており、とてもスッキリしました。

二つ目は、終わったあとのジュースです。

次の仕事は草取りで真夏に長時間やる仕事などとくにいやでした。だけど草がのびっぱなしだと足につっかかり、危ないのでまたいやいやながらにやっていました。草取りは、しゃがんで草を取るだけでつまらないし、日焼けもするし、座ってやるのもきついので、資源回収よりもいやでした。

でもこんな仕事だからこそ一つだけ楽しみがありました。それが、ジュースです。ジュースは草取りのあとに必ず一本もらえるという、真夏の草取りの最後には、最高のごほうびでした。みんな好きな飲み物を選んで冷たいジュースを飲む姿は、とてもうれしそうでした。そして、そのジュースは普段、飲むジュースとは違って、がんばったあとに飲むからこそ、格別おいしいジュースになるということがわかりました。

三つ目は、いろんなものがきれいになるからです。次の活動は、町をきれいにするという内容でした。そのときいやだったのは、長い距離をそうじしなければいけないということと、ごみをそうじするのできたないからという理由でした。私は、そのとき学校での活動で先生たちと活動していました。そしてたまに先生たちがいなくなるので、友達としゃべったりしてサボっていました。自分でも、いけないと分かっていても、やりたくないという理由からどうしてもやってはいけないことをしてしまいました。

でも、そのとき、きたないごみをいやな顔せず、運んでいる人を見て、このような姿勢ではいけないという思いで少しずつではあるけど、だんだんごみを運んでいくようになりました。私はこの活動で学んだことは、集団で活動するからこそ自分の行いをちゃんと確認することができるということです。サボることはよくないことです。でも、私みたいにサボっていた人たちは、がんばっている人をみて、どう思って、どんな行動をしたらよいのかを考えるのが大切だと思いました。そしてこの活動で町だけでなく心もきれいにすることができました。

四つ目は、感謝やうれしいという気持ちです。次の活動も三つ目と同じ活動で、学校での活動だったのでやればいいだろうくらいのしょうがなくやる程度だったので、適当にやっていました。でも、活動した後に必ず感謝されます。私はちゃちゃっとやっただけなのに感謝されました。

私は、このことを考えました。簡単であたりまえのことだとしても、実際一人では、やろうと思いません。だからこそ感謝されるのではないかと思いました。やろうと思うことはできるけど行動に移すことはできない人が多いです。そして私もその一人です。だから実行できるということのすごさを知りました。そしてそのあたりまえの行動は、周りの人たちを笑顔、そしてうれしいと思ってもらえる行動だと気づくことができました。

最後にこの四つのことは全て、うれしい、楽しいというとても素敵な言葉につながるということが分かりました。

これから私は、ボランティア活動を必ずしていくかということは、分かりません。でもこの作文を書くときに再確認できたことは、ボランティア活動は、たくさんの人、そして、自分自身を素敵な気持ちにさせてくれるということが分かりました。これからは、ボランティア活動は大変そう、めんどくさそうという考えではなく、人を幸せにする活動ということをみんなに知ってほしいです。

「僕の夢を叶えるために」

南関中3年・黒木（くろき） 堅伍（けんご）

僕の夢。それは高齢化社会が進んでいるこれからの日本に必ず必要となってくる看護師になることです。その理由は、中学一年生の終わり頃に病院に通院した時の二つの出来事です。

まず一つ目は、病院での看護師さん達が一人一人の患者に対して適切な対応をし、高齢の方から小さな子供まで色んな人が笑顔になっていた姿を見た事でした。次から次にテキパキと行動する格好の良さや、人を笑顔にできる仕事に就きたいなと思っていた自分にぴったりだと思い看護師になりたいなと思ったのが一つ目のきっかけでした。

僕はこの後、図書室で看護師に関する本を読んでみることにし、毎日のように図書室に通うようになりました。「看護師になるためには」や、「看護師の一日」など色んな本を読みました。また、自分の看護師になりたいという思いを、親や学校の先生にも話してみました。すると親が「はたらく細胞」という本を買ってきてくれたのです。それは、父が働いている病院の看護師さんがオススメする本であることが分かりました。僕はそれを聞いて親が僕の夢のために協力してくれていることを知り、更に頑張ろうと思いました。

また、母からは、父が夜に電話をして親せきの看護師さんや同じ病院の看護師さん達に僕の夢のことについて色々と聞いてくれている事を教えてもらいました。僕はそんな家族の協力にとても感動し、自分も今まで以上に家族に協力していきたいと思いました。

次に、僕の看護師になりたいという思いがしっかり固まった二つ目のきっかけは、病院で点滴をしていた時の看護師さん達の優しさや、話しやすさでした。病室に入ってくる看護師さん達は毎回違いましたが、その一人一人が僕と色んな事を話してとても優しく接してくださったのです。僕はこの事がとてもうれしくて大人になったら看護師になり、入院してくる患者さん達に、同じ思いをしてほしいという強い思いが出て、看護師になりたいではなく、看護師になる。という思いに変わったのです。

そこで僕はまず、看護師になるための進路を本やインターネットを利用して調べたり、親に相談して一緒に考えてもらったりしました。夜また、父は看護師さん達一人一人にどういう進路で仕事に就いたかなどを聞いてくれていたそうです。その中で二つ、中学卒業後、看護専攻科に五年間行きすぐに働き出すか、専攻科ではなく他の科で三年頑張って大学に行くという選択にしぼられました。

中学二年の時までは、親からも、「そんなに早く考えなくても後一年あるんだからゆっくり考えんね。」と言われていました。だから自分自身、深く考えていませんでした。しかし僕ももう三年になり、母の「三年にもなったしこれからの進路ば早くきめなんごつなったたいね。」という一言を聞き、あまり深く考えていなかった進路について色々と悩むことが多くなってきました。「今の成績で大丈夫なのだろうか…」、「今のままで看護師という夢までたどりつけるのだろうか…」と今まで以上に不安になりました。

しかしそんな中、父は僕に対して「自分のなりたい自分になるためには自分の努力が一番必要なんだよ。」と僕の不安を解決してくれる言葉をかけてくれたのです。この言葉を聞いて、まず僕は、日頃の生活から変えていこうと思い、今までゲームやテレビを見て遊んでいた時間を、勉強時間に変えました。

また、学校行事やボランティアなどには積極的に参加し、何事にもただひたすら「努力」ということを意識するようになりました。すると自分自身、驚くほどに成績は上がり、合格できそうな高校の幅も広がりました。また学校行事やボランティアなどで仲の良い友達や、地域でも顔を覚えてくれている人が増え様々な人と上手にコミュニケーションをとることができるようになったのです。今僕は、あの父の言葉にとても感謝しています。だから、更に今まで以上に何事にも努力を忘れず挑戦し続け、将来看護師になって恩返しができたらいいなと思っています。

最後に僕は一番大切な事に気づくことができました。それは、自分の人生は様々な人達の協力があってこそ歩み進めるのであり、誰にも相談せず一人で頑張ろうとする人は必ず考えが尽きてしまうという事です。

僕が成功してきた様々な事、その全てに親、友達、先生方などの協力がありました。逆に失敗したことをふり返ると一人でなやんだ事のほうが多いのです。だから僕もこれからは色んな人に協力してあげたいなと思います。